

春日地区及び平田台地区合同監視委員会会議録【要約】

日 時 令和4年3月18日（金）午後2時58分～午後3時25分
場 所 春日大野城リサイクルプラザ 2階 研修室
出 席 者 監視委員 平田台地区 4名
春日地区 3名（委員1名欠席）
春日大野城衛生施設組合 事務局長、係長、主査1名、主任1名
春日市 地域生活部長、環境課長、主任1名

●春日大野城リサイクルプラザ、浄化センター及び最終処分場の運営状況について

(1) 不燃ごみの搬入量について

春日市の搬入量は令和2年度と比較すると、131.42トン、5.7%減少している。

大野城市も同じような状況である。

両市の2月末の総搬入量は4326.03トン、5.3%減少している。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症が蔓延する前の令和元年度と比較すると、春日市の搬入量は124.02トン、6.0%増加、総搬入量は280.18トン、6.9%増加となっている。

(2) 不燃ごみ搬出量について

不燃ごみに混入している可燃物の量は、両市合計で696.48トンであり、令和2年度と比較すると、40.85トン、5.5%減少している。

資源化物については、両市の不燃物の搬入量が減少したため、104.10トン、3.6%減少している。

両市の総搬出量は令和2年度と比較すると、225.78トン、5.0%減少している。

(3) し尿・浄化槽汚泥の受入状況について

両市の総搬入量は1212.92キロリットルであり、令和2年度と比較すると、2.59キロリットル、0.2%減少している。

両市の搬入量の割合は春日市が57.5%、大野城市は42.5%となっている。

水洗化の普及により、一次的な増減はあるが、減少傾向で推移している。

(4) 最終処分場の水質検査について

4地点（浸透水、地下水、地下水、放流水）で検査を2ヶ月毎に行っている。

カドニウム、鉛、全シアン、総水銀、アルキル水銀の5項目について、浸透水を除いては、

全ての項目で不検出となっている。

浸透水の調査においては、総水銀が検出されているが、専門の検査機関からも、他の箇所から検出されていないことや陶器類、ガラスくずのみの埋立の状況から、従来からの報告どおり、自然由来のものと考えられるとのこと。

(5) ダイオキシンの測定について

令和3年7月に実施し、浸透水、地下水、放流水において全て基準値以内である。

(6) 池の頭池の水質検査について

入口と出口の2地点の検査を年2回行っている。「生活環境の保全に係る項目」である水素イオン濃度、生物化学的酸素要求量、化学的酸素要求量、浮遊物質量、大腸菌群の5項目において、基準値以内である

「人の健康の保護に係る項目」であるカドニウム、鉛、全シアン、総水銀、アルキル水銀の5項目においても全て基準値以内である。

(7) 地下水の水質検査について

3地点において年2回検査を行っている。

カドニウム、鉛、全シアン、総水銀、アルキル水銀の5項目においても全て基準値以内である。

(8) 最終処分場の状況について

令和3年3月末の状況では全体の埋立可能容積 38,900 m³に対し、埋立量 17,248 m³となっており、埋立率は 44.3%である。

埋立残容量は 21,652 m³、埋立残率は 55.7%となっている。

●事務局より

当施設は稼動開始より 25 年以上経過し、建物や設備の経年劣化が進んでいる状況である。今後とも安定的かつ適切なごみ処理等を行っていくために、来年度から施設を延命化するための計画の策定に着手する予定である。

市民生活の中でごみは排出されるため、処分を行っていかなければならない。施設の延命化に併せて最終処分場についても議論する必要があるため、来年度以降の委員会等で審議をお願いする。